

風のように

甘木教会



牧師：竹田孝一



わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために
彼らの罪を自ら負った。イザヤ53：11

43 しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、44 いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。45 人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の子の身代金として自分の命を献げるために来たのである。

マルコによる福音書 10:43-45

【説教要旨】 仕える者になりなさい

「37二人は言った。『栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。』」という「座る」という聖書の言葉に雨宮慧司祭は注目して、この聖書の日課を説明しています。「ヘブライ語でコーアハ・イエシヴァーという、すなわち‘座力’である。座力は学者であるために絶対的な条件の一つである。・・・そういえば、ユダヤ人の子供たちがまだ5歳にもならないところから聖書やタルムードを勉強する学校は、伝統的にイエシヴァーと呼ばれるが、やはりそれも、学びはまず（長時間椅子に）座ること（イエシヴァー）に始まる。という考えに基づいている」（「旧約聖書の世界」三省堂）と旧約学者・池田裕先生が言われています。イエスさまも座って教えを説き、弟子たちも座って聞いていたと思います。長時間、イエスの前に座る、座力が、信仰者の姿です。イエスさまの前に座る座力こそ、信仰に全体的条

件です。では、イエスの前に座るとは、どういうことでしょうか。「旧約聖書には、『御座にすわる方』という表現がしばしば登場しますが、これは人間の言葉を越えた神をなんとか言い表そうとする努力の一つです。しかし、神が求める栄光は人が思い浮かべるそれとは異なることがあります。私たちの罪のために処断されたイエスが神の右の座に上げられたのは、神の目には、そこにこそ栄光が輝いているからです。」（「小石のひびき」雨宮慧 女子パウロ会）の後について行く人、それは特別な人たちだ。だがルターもカルヴァンも言います、それは間違っていると。主イエス・キリストの恵みによって生かされる者は、すべてを捨てることができる。この世にあってすべてを捨てることができる。」

弟子たちは、イエスさまによって特別に選ばれ、特別にイエスさまの前に座らされ教えをいただいていた。特別に選ばれたという自意識は、「ゼバダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」 36イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、 37二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」という場面になるのです。また、これを知った他の弟子は、「ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた。」となったのです。自分たちの座るところにこだわり、議論し合うのは、まったく世間の序列争いとまったく同じです。イエスさまは、こういう弟子の心を見抜き、神の栄光の座について、特別に選ばれた弟子たちに話すのです。

「42そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。43しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、 44いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」と。

「そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、44いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」と、神の目はここに座ることこそ栄光があるというのです。「秋月記」に、藩の指導者となった主人公が、「皆が生きるために励むという大道を歩まねば、悪人を取り除いたからといって民百姓が豊かになるものではない。正しいことさえ行えば、というのは、努めることから逃げ口上になる時があるのだ」と一節がある。「皆が生きるために励むという大道を歩む」とは、イエスさまは「仕える」という事だということです。「仕える」とは、他人の幸せのために、必要ならば、自らの正しさを、幸せをなす権利を捨て、自分の持っているお金、時間、地位・・・など惜しまず与えていくことであり、まさに自分の前に座しておられるイエスさまこそ、「45人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」というお方です。「神が求める栄光は人が思い浮かべるそれとは異なることがあります。私たちの罪のために処断されたイエスが神の右の座に上げられたのは、神の目には、そこにこそ栄光が輝いているからです。

神が求める栄光に従おうとする者は、イエスに教えられるように、皆に仕える者となり、すべての人のしもべとなります。」（「小石のひびき」雨宮慧 女子パウロ会）

私たちは、神の目が注ぐ、皆に仕える者となり、すべての人のしもべとなること、ここに座る、コアハ・イエシヴァーという、すなわち‘座力‘をイエスさまは、私たちの人生に座ってくださり、あなたがたは仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために特別に選ばれたのだ」と私たちをしてくださいます。

「皆が生きるために励むという大道を歩まねば、悪人を取り除いたからといって民百姓が豊かになるものではない。正しいことさえ行えば、というのは、努めることから逃げ口上になる」という心を私たちの心とするように祈っていきましょう。

日毎の糧

あなたは主を避けどころとし、
いと高き神を宿るところとした。



詩篇91：9



ルターの言葉

私たちの救いと生のすべては神の憐れみのうちに置かれ、
包まれている。わたしたちが現にあり、生きているのは
ただ恩恵によるのである。『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

生きているのはただ恩恵による

時代の大変化する中で、詩人はどう私たちは生きるべきかを
熟考した。

月本氏が「いと高き方の隠れ処に住む者は、シャッドイ（神
の呼称）の陰に宿るであろう。」と訳しているように世の変化
する物に自分の確かさを置くのでなく、世が変わろうと変わら
ない主、神こそを自分の避けどころとする詩人は詠う。長い苦
難の自分の民の歴史から生み出されたものではなかったのでは
ないでしょうか。

虚血性心疾患が原因で西田敏行さんが76歳で亡くなったと聞き、
「後、5年間」と思った一瞬、71年間の事が走馬灯のよう脳
裏に浮かび、イエス・キリストに捉えられた前と後ろでは凄く
自分の生き方が変わっていることに気づく。「いと高き方の隠
れ処に住む者は、シャッドイ（神の呼称）の陰に宿るであろ
う。」ということがイエスさまに捉えられて、試練にいるとき
もがき苦しみつつも、どこか陰に宿るという涼しげな自分がい
ることを感じている。ルターの言うように「私たちの救いと生
のすべては神の憐れみのうちに置かれ、包まれている。」と実
感できる。今、涼しげな神の陰に宿っている中で平安にこれか
ら歩めそうだ。

祈り：神よ、あなたの陰に宿りつつ、変化する時代にあっても
涼しげに動揺しないで生きることが出来ますように。アーメン。

牧師室の小窓からのぞいてみると



石破内閣は、衆議院を解散した。石破さんの行動についての評論を多くの人から聞くが、クリスチャンで、同志社・神学部を卒業した佐藤優氏の石破さんに対する発言を引用しつつ、評論している「『持論を現実に』信仰という石破首相が持つ力 著名な宗教家だった曾祖父から受け継いだDNA 高橋 浩祐（東洋経済オンライン参考）」は、納得する。

石破さんの母方の曾祖父は、熊本バンドの出身で、同志社の創設期に熊本から来て、創立者の新島譲の愛弟子となった金森通倫（みちとも）である。

「此の頃（15歳）から私は自身自ら天下を治めるの大望を抱いたのである。ここで私は初めて国家的人物になった。そして又心霊的人物となった。天下国家を治めんとするものはまずその身を治め、その心を正しうせねばならぬからである」と自伝に書いている。こういう使命感を継いだのがクリスチャン4代目石破さんである。

こういう使命感の強さはカルバン主義（日本基督教団系）の教会人に多い。それは、カルバン主義の「予定説」から来ると佐藤優氏は分析している。「佐藤氏は講演で『カルヴァン派の考え方は、その人の使命は生まれる前から決まっている。成功する人も失敗する人も生まれる前から決まっている。その人にはその人にしかない使命があるわけ。どんな逆境があってもどんなに無理だと言っても神様の声だけを聞いていれば必ず成功するという教えだ』と指摘した。これは、『救われる人間と救われない人間の両方を神はあらかじめ決めてある』カルヴァン派の『二重予定説』の考え方として知られている。」

園長・瞑想？ 迷走記

園の運営、経営の立て直しは、世の動きを分析して処置しても、時が良くても悪くてもどう理念のもとで動かしていくかということだと思う。そこにすべてがかかっている。102条園の研修にでて、増々そう感じた。理念を教育・保育に。

甘木通信

大森教会在任中に決まっていた岡崎での「東海部『明日の友の会』の礼拝説教をするために出かけた。出席されている対象が70歳代から90歳代」と高齢者の方々である。テーマは、「われら友あり、『交わりの中で 日々を愉しむ』であった。『日々を愉しむ』ということに注目し、コヘレトからテーマ説教を行った。「それでも生きる 旧約聖書『コヘレトの言葉』 小友聡 NHK出版」を再度、読み直した。「空」という言葉の解釈を「空しさ」という意味があるが、「空」を「束の間」と捉え、「空の空、一切は空である」は、「すべてはほんの束の間である」と捉えて、「すべてはほんの束の間である」ということから今という時を大切にすると小友先生は言われている。この機会にブラジルから帰国した時に就任した刈谷でお世話になったSさん、SIさんを訪ね霊前で花をささげ、息子さん、ご主人と話し、祈った。教会のお花をお世話してくださった花屋さんをどうしても訪れ、感謝を伝えたいと思っていたが、亡くなられていた。奥様と思い出話をした。ブラジル時代に私たちの健康、子どもたちの世話をしてくださった鍼灸師のK夫妻と会えて、感謝の言葉を伝えた。すべてはほんの束の間であるということを感じつつ、束の間だから大切にしていかななくてはいけないと実感しつつ今を愉しんだ時であった。「すべてに時がある」ということが説教題であった。



(甘木日記)土) 日善幼稚園入園説明会。午後から主日の準備に甘木。温泉で癒し。日) 甘木教会の昔の牧師、林宏牧師の長女の方と小城、牛津幼稚園で奉職された i さんと一緒に礼拝。月) 幼稚園で菊を植える。火) 「東海部 明日の友の会」説教の為に愛知県岡崎へ。水) 「東海部 明日の友の会」、202名の参加者。多くのことを逆に学ぶ。刈谷に行き天に帰られたお世話になった方々を訪問して祈る。お世話になった花屋さんも訪問。木) ブラジル時代に大変にお世話になったKさん夫妻と会食。夜、遅く久留米に到着。金) 運動会の準備。終わったのは19時、これはどうかしなくてはという危機感。講師謝礼金額を幼稚園に。発達特質の子どものために使った工事費とびったり。神が備えてくださる。交通費は手出し(笑)「富と金には兼ね仕えることは出来ない」。これも嬉しい。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
ぐちらない聖人（牧師）もいますが。



（銀杏） 土）第4回「日善幼稚園・説明会」。2家族の方が参加された。フィリピンの方と相談会をしたいという先生の話を受けて通訳してくれる方を探した。くでランチ。幼稚園の元園長もここにおられた。夕
（銀杏） 刻、甘木教会へ向かう電車の中は読書の時間。水曜日に行う「友の会」の説教の推敲。主日の準備。今日も日帰りの温泉に。夕食はリンガーハットへ。日）甘木教会の牧師であった林宏牧師の長女の信子さん、小城幼稚園、牛津幼稚園で働かれた泉先生、そして代議員のお孫さんも来られ温かい時間が流れた。月）休日、幼稚園に行き、掃除と菊の苗を植える。火）一年前から決められていた愛知県岡崎市で「東海部 明日の友の会」の説教をするために移動。早めに行き、お世話になった天に帰られたi先生の幼稚園を訪問。幼稚園に行くが、運動会の代休で休園。近所の方が花を預かってくださり助かった。岡崎に移動。主催者の方と夕食を共にする。留守をしている幼稚園の報告を事務、主任から聞き、指示。水）岡崎で「東海部 明日の友の会」で礼拝説教。202名の参加者だったと聞く。各地区の報告は、色々学ぶものがあつた。Iさんのお話にはこれから老いを生き始めた私は勇気づけられた。Zoom礼拝にも参加して下さっていると聞く。ブラジルから帰国後、最初の就任地・刈谷に寄り、天に帰られた方々の墓前で祈りをささげる。お世話になった花屋さんに寄るとご主人が天に帰られていた。後を継いだ奥様と楽しい時間を過ごす。各流派の花のアレンジを一切してご主人が各流派に花を届けていたので、何も知らなかったの今、勉強していますと。80歳からの手習いだと愉しそうに語られていた。木）東の間を大切に、家内は友人と出会い、私はN教会に行く。留守であったが、祈って帰る。久留米に帰る前に、医療費が高いブラジルにあって、鍼灸の治療をし、私たちの健康、私たち赤子の息子らの世話をしてくださつた。K夫妻と会食しながらブラジル時代を話す。夜、遅く久留米到着。フォーカスの応援した人で電車はいっぱい。東の間を愉しんだ3日間だった。金）明日の運動会の準備が終わ（岡崎城）つたのは午後7時を越す。甘いお菓子と、飲み物を最後にプレゼント。幼稚園の発達特質の子のために改修工事した請求分と岡崎の説教での講師料と献金が同額で全て幼稚園に出す。ちょっと後ろ髪が引かれる。交通費は手出し。まだまだ修行が足りない。（笑）

